

第六次鹿児島市総合計画 基本構想（案）

令和3年5月

鹿児島市

この基本構想（案）には、「総合計画策定の趣旨」、「総合計画策定の前提」及び「総合計画の体系図」を併せて掲載しています。

目 次

1	総合計画策定の趣旨	P 1・2
2	総合計画策定の前提	
	(1) 時代の潮流	P 3・4
	(2) 本市の特性	P 5
	(3) 将来推計	
	①人口	P 6
	②財政	P 7
3	基本構想	
	(1) 都市像	P 8
	(2) 基本目標	P 9・10
4	総合計画の体系図	P 11・12

1 総合計画策定の趣旨

(1) 策定の趣旨

- ◇本市では平成23年度に策定した第五次鹿児島市総合計画（計画期間：平成24年度から令和3年度）に基づき、都市像である「人・まち・みどり みんなで創る “豊かさ” 実感都市・かごしま」の実現を目指し、総合的かつ計画的にまちづくりを進めてきたところです。
- ◇この第五次鹿児島市総合計画の計画終了を令和3年度末に控え、社会経済情勢の変化など時代の潮流を見据えた、将来における本市のあるべき姿と進むべき方向について、基本的な指針となる新たな総合計画「第六次鹿児島市総合計画」を策定するものです。

(2) 計画の位置づけ

- ◇第六次鹿児島市総合計画は、本市の将来像と長期的なまちづくりの基本目標を明らかにし、その実現に向けた施策の基本的方向や体系を示した上で、市民と行政がともに考え、ともに行動する協働・連携のまちづくりを進めていくための計画です。
- ◇また、行財政運営を総合的かつ計画的に進めるための最上位計画であり、各分野の個別計画や施策は、この計画に即して策定され、展開されるものです。

(3) 計画の区域・範囲

- ◇計画区域は原則として市域を対象としますが、連携中枢都市圏など、必要に応じて広域的な視点に立つものとします。
- ◇また、関連する国・県等の計画や施策・事業との整合に留意します。

(4) 構成と期間

①構成

基本構想

本市のまちづくりの最高理念であり、都市像及び基本目標を示すもの
【期間】10年間（令和4年度～令和13年度）

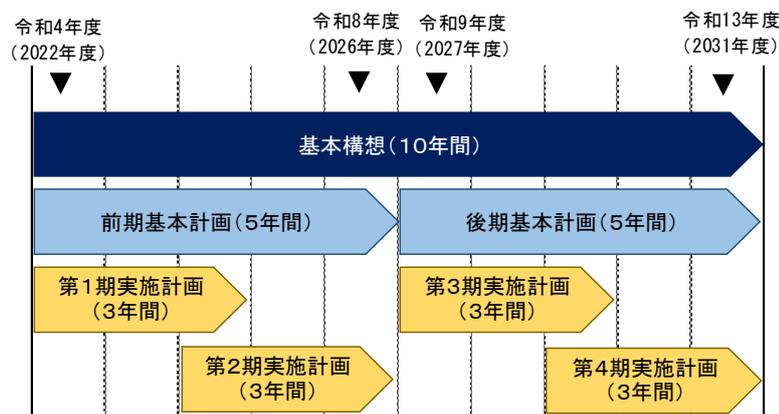
基本計画

基本構想に基づく市政の基本的な計画であり、基本目標を踏まえた施策の基本的方向及び施策の体系を示すもの
【期間】前期5年間（令和4年度～令和8年度）
後期5年間（令和9年度～令和13年度）

実施計画

基本計画に基づく財源の裏付けを伴う市政の具体的な計画であり、施策を実現するため実施する事業を示すもの
【期間】第1期～第4期（1期3年間）

②計画期間



(5) 策定に当たっての視点

視点①

長期的展望に立った持続的発展が可能な計画

- ・新型コロナウイルス感染症により、市民生活や地域経済に重大な影響が生じている現状を踏まえ、経済の回復、新しい生活様式や働き方等の社会経済システムの変化への対応を考慮した計画とします。
- ・少子高齢化や人口減少、地球温暖化、情報通信技術（ICT）の進展など、社会経済情勢を的確に見据え、長期的視点に立った計画とします。
- ・社会保障費の増大など財政需要が増大する中、大規模災害の発生や感染症の拡大など想定外のリスクに対応するとともに、地方創生や市民ニーズ、時代の要請に応えるため、費用対効果を念頭に置きながら、施策の重点化・戦略化を図るなど、将来にわたり持続的発展が可能な計画とします。

視点②

SDGsの視点を取り入れた計画

- ・国連の持続可能な開発目標（SDGs）について、世界共通の目標として、本市施策との関連付けを行うなど、SDGsの視点を取り入れ、多様な主体がその意義を共有しながらSDGsを推進する計画とします。

視点③

多様な連携・つながりを重視した計画

- ・地域や地域の人たちと関わる関係人口の拡大、連携中枢都市圏や国内外の都市との交流・連携、アジアへの展開など、人やまちの多様なつながり・ネットワークを拡げ、活用することを重視した計画とします。

視点④

市民との協働・共創を推進する分かりやすい計画

- ・若者をはじめ広く市民意見を聴取し、反映させるとともに、市民や市民活動団体、事業者などのあらゆる主体が課題を共有し、協働・共創しながらまちづくりを進めていくこととし、その共通のビジョンとなるよう、市民の視点に立った分かりやすい計画とします。
- ・施策の目標と成果を指標等により把握し、市民と共有するなど、適切な進行管理のあり方を見据えた計画とします。

2 総合計画策定の前提

(1) 時代の潮流

◇総合計画期間内のまちづくりを考える上で踏まえるべき特に大きな時代潮流

<新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化>

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う甚大な影響は、地球規模で社会、経済、さらには人々の行動や価値観などあらゆる面に波及し、長期にわたり、大きくその影響を受けることが予想されています。
- ・このような時代の大きな転換点に直面する中、感染症拡大への対応と社会経済活動の両立を進め、さまざまな面における変化を取り入れながら、新たな経済社会の姿を実現することが求められています。

<人口減少・少子高齢化の進行>

- ・我が国の人口減少は、今後、少子高齢化の進行に加え、老年人口さえも減少していく人口構造の変化を伴いながら加速度的に進むとされており、労働力人口や消費市場の縮小など、地域社会に深刻な影響を与えることが懸念されています。
- ・このような中、国と地方が一体となって人口減少のスピードを抑制するとともに、地域の特性を生かした交流・関係人口^{※1}の拡大による活力創出や、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めることが重要になっています。
- ・さらに、地方においては、若年層の就職等に伴う大都市圏への流出などが続いており、地域経済の活力喪失を防ぐため、若い世代にとって魅力ある環境の創出を図る必要性が高まっています。
- ・また、国・地方において、高齢化等に伴う社会保障費の増大や公共施設等の老朽化などに伴う財政負担の増加が見込まれる中、民間資源の活用や他自治体との広域連携など、多様な主体との連携をさらに推進するとともに、効率的で健全な行財政運営により、持続可能な都市経営を進めることが求められています。

※1 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人

<グローバル化・ICTの進展>

- ・ICTの飛躍的な発展や交通手段の発達などにより、グローバル化が一層進展し、世界規模で社会的・経済的な結びつきが深まっています。
- ・また、IoT^{※2}、AI^{※3}、ビッグデータ^{※4}など“第4次産業革命^{※5}”ともいわれる技術革新が進む中、新しい生活様式の実践も相まって、経済活動や日常生活におけるデジタル技術の活用が、今後さらに社会全体へ広がることが予想されています。

- ・このような中、人・もの・情報の国や地域を越えた多面的な交流や、新たな技術の幅広い分野での活用により、地域経済の活性化や豊かな地域社会の形成につなげていくことが求められています。

※2 IoT：Internet of Things の略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボットなどあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやりとりをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。

※3 AI：Artificial Intelligence の略で、学習や推論など人間の知能が持つ役割をコンピュータで実現する技術のこと。人工知能ともいう。

※4 ビッグデータ：

スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。

※5 第4次産業革命：

デジタルな世界と物理的な世界と人間が融合する環境。具体的には、あらゆるモノがインターネットにつながり、そこで蓄積されるさまざまなデータを人工知能などを使って解析し、新たな製品・サービスの開発につなげる等とされている。

<地球規模での環境問題の深刻化>

- ・温暖化による世界的な気候変動や生物多様性の損失など地球環境問題は、人類のみならず地球上の生物すべてに危機的な状況を生じさせています。
- ・次世代のエネルギーの導入など脱炭素社会に向けた取組を進めるとともに、大量生産・大量消費の社会のあり方を見直し、環境への負荷を低減する循環型社会の形成を図り、将来の世代に豊かな環境の恵沢を継承していくことが求められています。

<安心安全を脅かすリスクの高まり>

- ・近年、全国各地で甚大な被害を及ぼしている集中豪雨や台風に加え、巨大地震や火山噴火の懸念、新たな感染症の流行などにより、安心・安全な暮らしを脅かすリスクが高まっています。
- ・今後起こりうる危機事象による社会経済への影響を最小限にとどめ、迅速に回復が行われる体制を備えるためには、行政や市民、事業者等がそれぞれの役割を認識しながら、相互に連携して、都市の安全性を高めていくことが求められています。

<価値観の変化・多様化>

- ・就業構造や家族形態の変化、“人生100年時代”と言われる長寿命化に加え、大都市部への人口集中リスクへの認識の広がりなどに伴う地方回帰の機運など、人々の価値観やライフスタイルの多様化がさらに進んでいます。
- ・多様な価値観を認め合い、一人ひとりがワーク・ライフ・バランス※6を図りながら生涯にわたり、個性と能力を発揮しながら、さまざまな場面で活躍できる社会の実現が求められています。

※6 ワーク・ライフ・バランス：

仕事と生活の調和。一般的には、仕事と仕事以外の生活とのバランスが取れ、その両方が充実した状態にあること。

(2) 本市の特性

◇総合計画期間内のまちづくりを考える上で生かすべき本市の特性

<国内外につながる交通の広域拠点>

- ・本市は、日本の南に位置し、古くからアジアをはじめとした海外との交流拠点として栄えてきました。
- ・日本列島をつなぐ新幹線の南の発着点である鹿児島中央駅をはじめ、九州縦貫自動車道や南九州西回り自動車道などの高速交通網、離島航路の発着機能を持つ鹿児島港や大型クルーズ船の接岸が可能なマリポートかごしま、本市と短時間で結ばれ国際線を有する鹿児島空港など、国内外とのダイナミックな交流を支える基盤を備えています。
- ・これらを生かし、国内外から数多くの来街者が行き交う都市づくりを進めていくことが必要です。

<多彩な自然資源と都市機能の集積>

- ・本市は、市街地の眼前に広がる雄大な桜島と波静かな錦江湾という世界的にも稀有な自然景観をはじめ、多様な生き物が棲む自然環境、魅力あるウォーターフロント、まちなかで楽しめる温泉、温暖な気候、郷土色豊かな食文化など、多彩な自然資源に恵まれるとともに、業務・商業機能などの都市機能が集積した魅力ある都市空間が形成されています。
- ・これらの多彩な自然資源と都市機能の集積が調和する中で、質の高い生活基盤を備え、心豊かで健やかに暮らすことができる、持続可能な都市づくりに取り組んでいくことが必要です。

<世界に誇りうる魅力ある歴史や文化>

- ・本市は、島津氏の城下町として発展し、さまざまな分野において優れた人材を輩出しているほか、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産を有するなど、世界に誇りうる個性にあふれた歴史と文化が築かれています。
- ・これらを生かし、さらに磨き上げ、効果的に発信することにより、地域への誇りや愛着を醸成し、まちに思いを寄せる人々の力を地域の活力につなげる都市づくりを進めていくことが必要です。

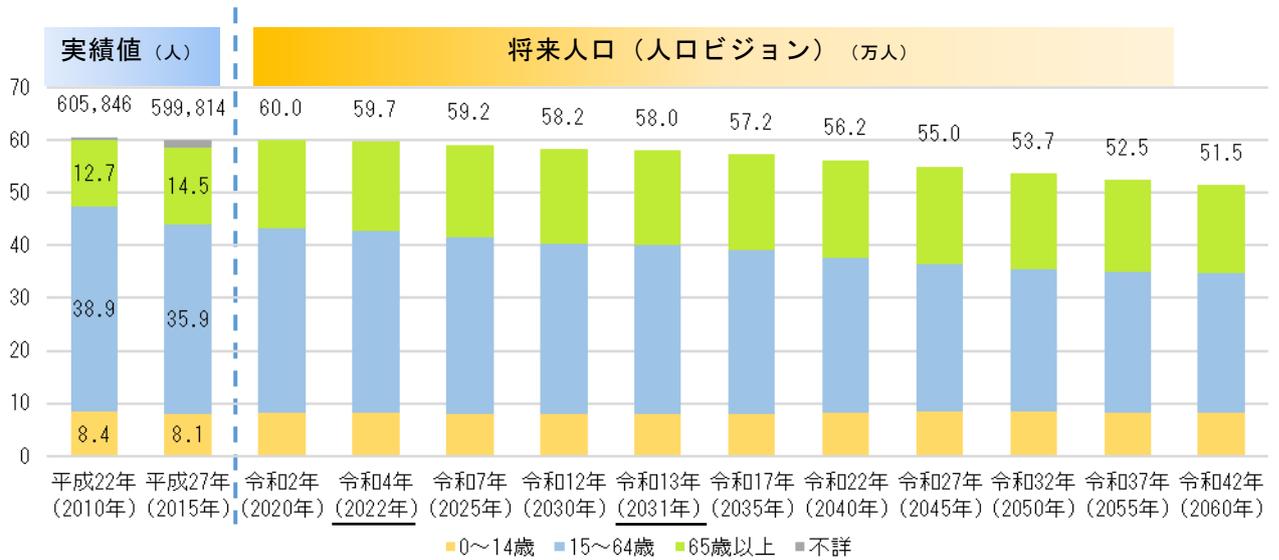
<温かみのある人柄と助け合いの風土>

- ・本市は、思いやりや連帯感を培った郷中教育が郷土の偉人を育ててきた歴史を持つなど、温かみにあふれる市民性や支え合い・助け合いを大事にする風土があります。
- ・これらを生かし、市民、そして、本市を訪れるさまざまな方々にとって、やさしさと温もりに満ちた都市づくりを進めていくことが必要です。

(3) 将来推計

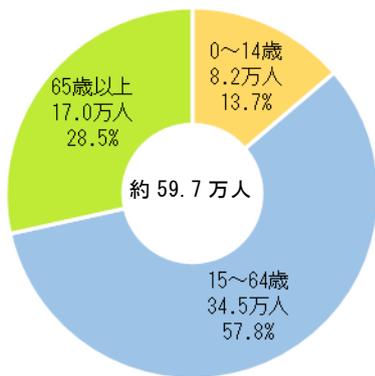
①人口

○本市将来人口の展望

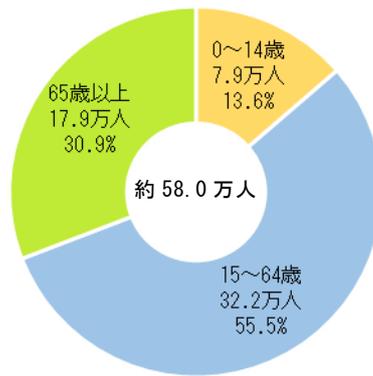


○計画期間における年齢3区分別人口構成

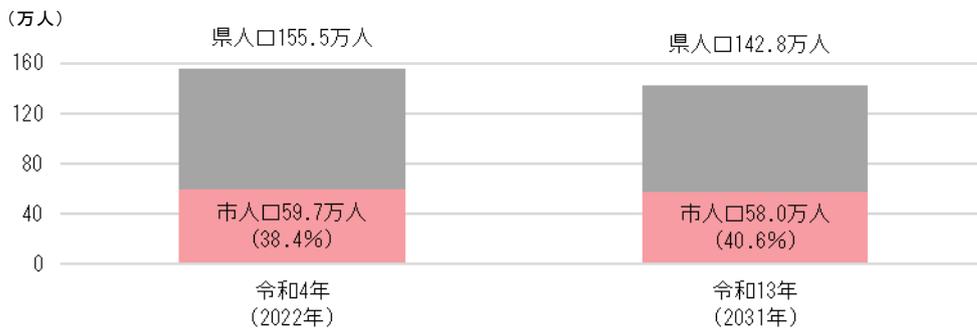
【令和4年(2022年)】



【令和13年(2031年)】



○計画期間における県人口に占める本市人口のシェア



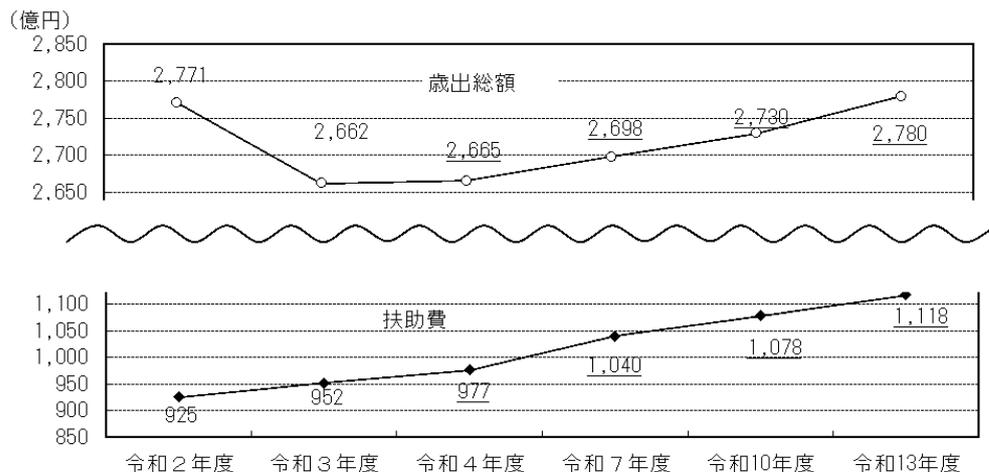
(注1) 平成22年及び平成27年は国勢調査による実績値（総人口には、年齢不詳含む）

(注2) 令和2年以降の鹿児島市人口は、「鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」で示された将来人口の数値を基にした推計値であり、県人口は「第2期鹿児島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」で示された将来人口（自然動態国準拠）の数値を基にした推計値である。

(注3) 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。また、構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

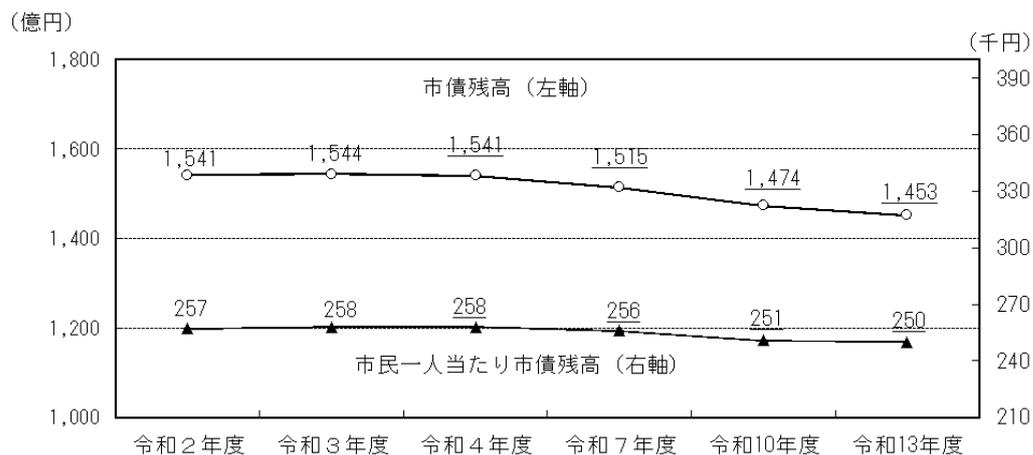
② 財政

○本市の一般会計歳出総額と扶助費※の将来推計

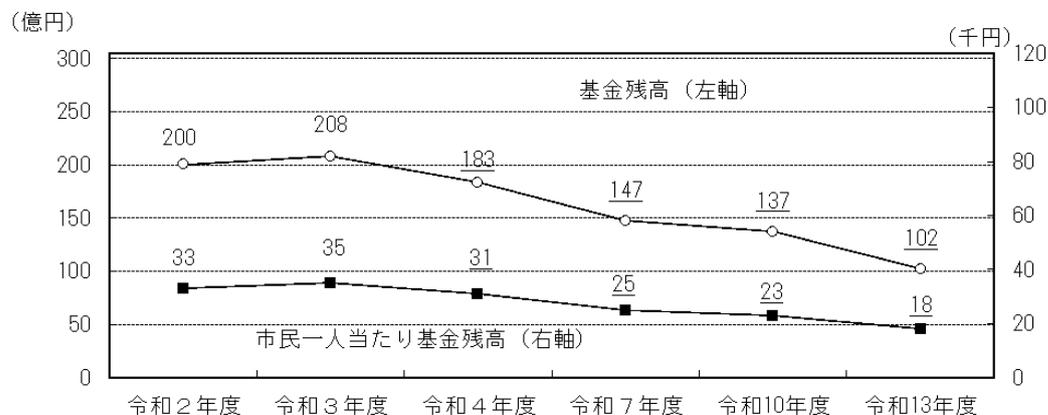


※扶助費：生活保護費、子育て支援など、福祉や医療に係る費用。

○本市の市債残高と市民一人当たり市債残高の将来推計（臨時財政対策債を除く）



○本市の財源調整可能な基金残高と市民一人当たり基金残高の将来推計



(注) 令和2・3年度は当初予算ベース。令和4年度以降は、内閣府が作成している中長期の経済財政に関する試算などを基に算出した推計値。

3 基本構想

(1) 都市像

◇総合計画期間内で目指す、将来のまちの姿

多彩で豊かな地域資源に恵まれ、県都として多様な都市機能が集積した鹿児島市は、南九州の中核中核都市として着実な発展を遂げてきました。

一方、人口減少・少子高齢化の進行、グローバル化やICT等新技術の進展、災害や感染症リスクの高まりなど、私たちの社会や個人の暮らしを取り巻く環境は大きく変わろうとしており、こうした変化に的確に対応し、課題を克服しながら、将来にわたり持続可能なまちをつくりあげ、次の世代へ引き継いでいかなければなりません。

そのため、市民一人ひとりが互いに尊重しあい、個性と能力を発揮しつつ、市民、事業者、鹿児島への思いを寄せてくださる多くの人々、関わりのある団体など、さまざまな交流を通じ、相互のつながりを深めることにより、新たな価値が生み出され、多彩な人材やまちの魅力が豊かな彩りとなる、人もまちも躍動する鹿児島市の創造を目指し、次の都市像を掲げます。

つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま

私たちの目指すまちでは、人やまちの多様なつながりの中で、互いに支え合い、その英知を結集することで、地域社会に温もりと活力が満ちています。

豊かな自然と調和した環境の中、私たち市民は、子どもから高齢者まで、自分らしく健やかに生き生きと暮らしています。

また、まちへの誇りと愛着を持つ人の輪が拡がり、多彩な魅力が国内外に発信され、多くの人々を惹きつけ、交流とにぎわいを生み出しています。

そのようなまちの中で、次代を担う多彩な人材が生まれ、未来への希望にあふれています。

(2) 基本目標

◇「都市像」を実現するための基本目標

信頼とやさしさのある 共創のまち 【信頼・共創 政策】

市民や地域団体、大学、事業者、行政など多様な主体が協働・連携し、新しい価値をともに創るまちづくりを進めるとともに、健全な財政を維持し、効率的で質の高い行政サービスを展開します。

国内外の都市との連携や交流を進めるとともに、効果的な情報発信やシビックプライド^{※7}の醸成などにより、まちの魅力を磨き高め、広めます。

性別や年齢、国籍などに関係なく、一人ひとりの人権や多様性が尊重され、個性と能力を発揮できる地域社会を築きます。

※7 シビックプライド：都市に対する市民の誇り。単なる郷土愛とは異なり、都市をよりよい場所にするために自分自身が関わっているという当事者意識に基づく自負心のこと。

自然と都市が調和した うるおいのあるまち 【自然・環境 政策】

CO₂排出量の削減や再生可能エネルギーの地産地消、省エネなどの環境に配慮した生活スタイルへの転換を進め、市民みんなでゼロカーボンシティ^{※8}かごしまの実現を目指します。

3R^{※9}の推進によるごみの減量化・資源化や適正な処理を進め、資源が循環する地域社会を築きます。

生物多様性の保全・活用や水と緑豊かな美しいまちづくりに取り組み、人と自然が共生し、うるおいと安らぎを感じられる環境を整えます。

※8 ゼロカーボンシティ：2050年までにCO₂の排出量を実質ゼロにすることを目指す自治体のこと。

※9 3R：Reduce（リデュース；ごみの発生を抑制する）、Reuse（リユース；繰り返し使う）、Recycle（リサイクル；資源として再び利用する）の3つの頭文字をとったもの。

魅力にあふれ人が集う 活力あるまち 【産業・交流 政策】

世界に誇れる多彩な魅力を生かした観光・交流を進めるとともに、誰もがスポーツを楽しむことができる環境を整え、国内外から多くの人が集うまちをつくります。

街なかにおける商業・観光などの魅力を創出し、にぎわいと活気を高めます。

地域産業の活力の創出や海外展開、農林水産業の振興を進めるとともに、雇用を創出し、若者の地元就労促進など担い手の確保に取り組むほか、多様で柔軟な働き方を促進し、地域経済を活性化します。

自分らしく健やかに暮らせる 安心安全なまち 【健康・安心 政策】

健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、高齢者や障害者をはじめ、市民一人ひとりが、ともに支え合い、生きがいを持って自分らしく生活できる地域づくりを進めます。

健康づくりや感染症対策の強化、医療体制の確保などにより、保健・医療を充実し、健康寿命を延ばします。

交通安全や防犯対策など、生活の安全性を高める取組を進めるとともに、災害などから市民の生命、身体、財産を守るために、危機管理体制や防災力・消防力を強化し、安心して安全に暮らせるまちをつくりまします。

豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち 【子ども・文教 政策】

市民の結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえる支援を充実するとともに、未来の力となる子どもたちの明るく健やかな成長を支え、安心して子どもを生み育てられるまちづくりを進めます。

子どもたちが夢と希望を持って、限りない可能性に挑戦できるよう、学校・家庭・地域・事業者などが連携・協働しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を進めます。

誰もが、生涯にわたって学び続けることができる環境を整えるほか、文化芸術や歴史に親しむことのできる市民文化を創造します。

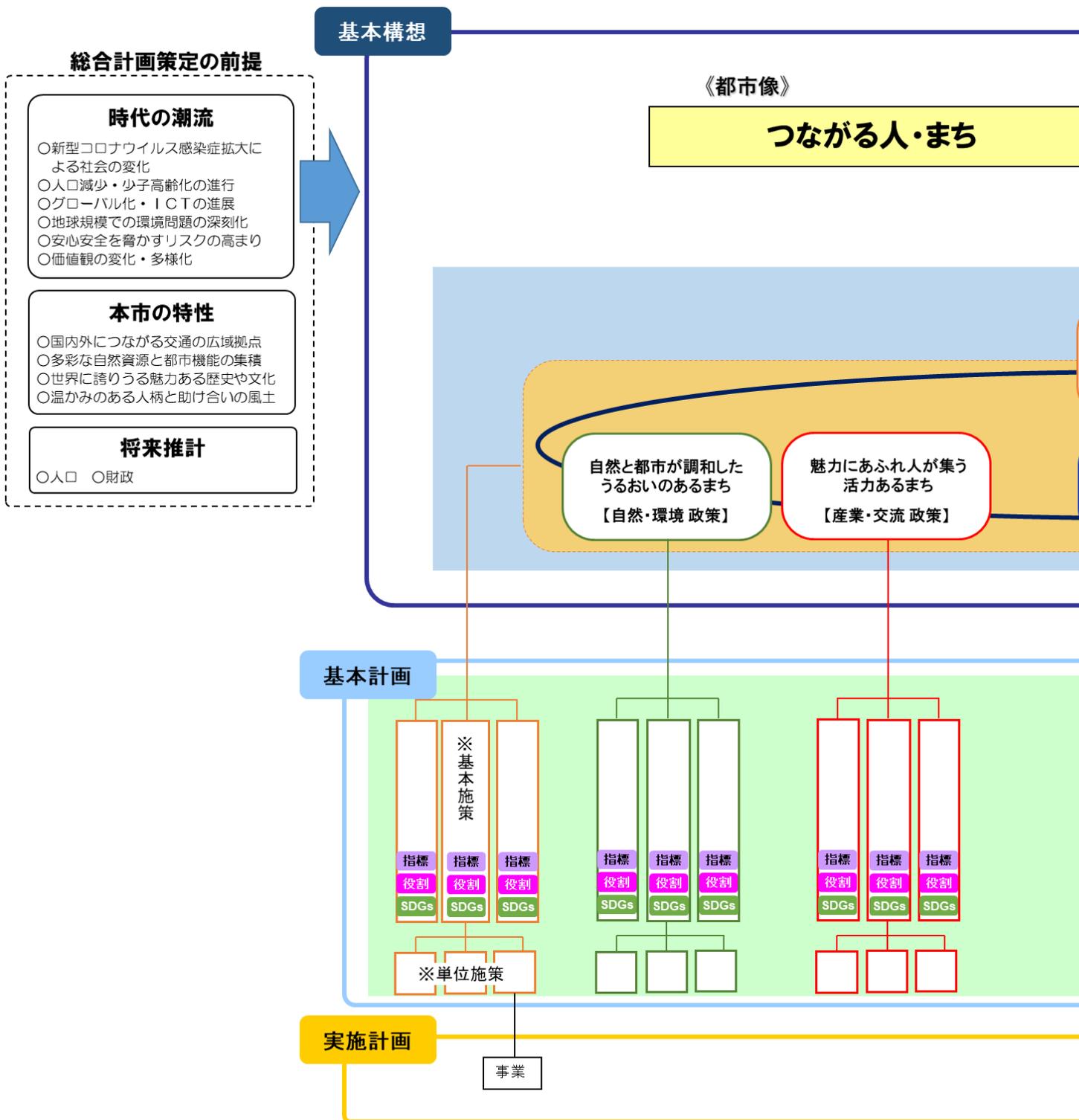
質の高い暮らしを支える 快適なまち 【都市・交通 政策】

コンパクトなまちの実現を目指すとともに、住宅団地の活性化や街なかの整備、良好な景観づくりを進め、機能性の高い都市空間を形成します。

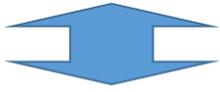
生活道路や上下水道など、市民の暮らしを支える生活基盤について、既にあるインフラなども有効に活用しながら効果的な整備を進め、誰もが暮らしやすいまちをつくりまします。

広域交通ネットワークの形成や、効率的で持続可能な公共交通体系の構築により、すべての人が使いやすい、快適・便利な交通環境を整えます。

4 総合計画の体系図



彩りあふれる 躍動都市・かごしま



《基本目標》

信頼とやさしさのある
共創のまち

【信頼・共創 政策】

自分らしく健やかに暮らせる
安心安全なまち

【健康・安心 政策】

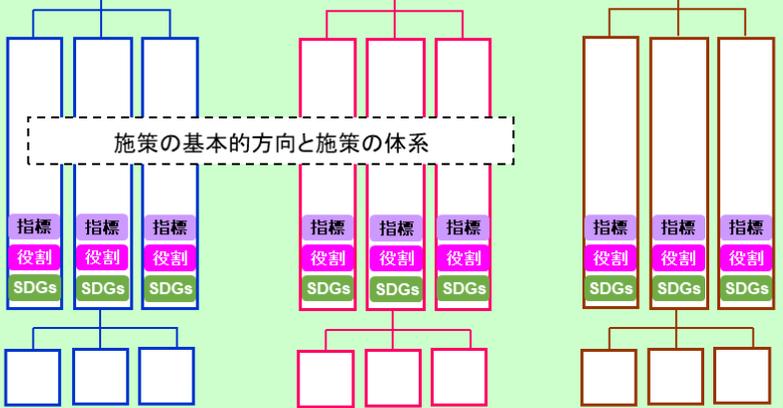
豊かな個性を育み未来を拓く
誇りあるまち

【子ども・文教 政策】

質の高い暮らしを支える
快適なまち

【都市・交通 政策】

基本目標別計画



重点プロジェクト

地域別計画

まち・ひと・しごと創生基本方針

指標
役割
SDGs

実施する事業